

平成23年度「福井新々元気宣言」推進に係る政策合意の実施結果

(平成24年3月末現在)

「福井新々元気宣言」の4つのビジョンを着実に実現していくため、平成23年7月に知事と合意をした「政策合意」の実施結果について、次のとおり報告します。

平成24年3月

土 木 部 長 西 山 幸 治

I 総括

1 道路交通ネットワークの整備

- 舞鶴若狭自動車道の日も早い開通や、スマートインターチェンジの設置に関する予算確保や連結許可に向けた手続き開始について、中日本高速道路株式会社や国土交通省に対し強く要請を行いました。
小浜西・小浜間については、夏休み前の7月16日に開通しました。
小浜・敦賀間については、平成26年度開通に向けて全区間で工事が進められています。
敦賀南スマートインターチェンジ(仮称)については、国土交通省による連結許可手続きの開始をうけ、3月5日に中日本高速道路株式会社へ実施計画書が提出されました。
- 中部縦貫自動車道の事業促進や事業化されていない区間の早期事業化について、国土交通省に強く要請を行いました。
永平寺大野道路について、福井北・松岡間では松岡高架橋下部工事が開始され、永平寺東・上志比間では浅見トンネルが貫通しました。勝山・大野間では、来年度開通に向け、国道157号と交差する中津川高架橋の架設が完了するなど着実に工事が進められています。
大野油坂道路について、和泉・油坂間の平成24年度新規事業化が決定され、大野東・和泉間では用地測量が進捗しました。
- 併せて、県内の主要道路の整備について優先度をつけて計画的に促進しました。
- これからも、高規格幹線道路の早期整備と主要道路の効率的な整備により、道路交通ネットワークの確保を図っていきます。

2 災害に強いインフラの整備

- 足羽川ダムについては、早期に推進に向けた結論を出すよう国に求めています。また、河内川ダム、吉野瀬川ダムについては、流域の安全を確保するため、一日も早くダムが完成するよう国の支援を受け事業を推進します。大津呂ダムについては、平成24年度の洪水期までの運用開始を目指します。
- 県内の河川において、洪水に備えた改修を進めるとともに、河道内の流下阻害の恐れのある土砂や雑木等の除去を行い、治水安全度を向上しました。
- 治水対策や土砂災害対策などのハード対策と併せて、浸水想定区域対策について、地元、市役所などと協議を進めました。さらに、市町と連携した土砂災害避難訓練を実施するとともに防災講習会を開催するなど、警戒避難体制の整備を図りました。
- 道路の防災・防雪・除雪・融雪対策、橋りょうの長寿命化対策を進め、道路の安全を確保しました。
- これからも、自然災害に対する県民の安全安心の確保を図っていきます。

3 県民と共動して便利で美しいまちづくり

- 県内4地区における地域の特性に応じた住教育の実施、橋りょう景観ガイドラインの策定など、景観改善の環境づくりを進めました。
- 耐用年数が経過した公共施設への案内看板等の除却や、歩道整備区間における道路標識等の集約化を実施し、道路景観を改善しました。
- 県都のシンボルである足羽川の水辺での活動の促進と定着が図られ、にぎわい創出がなされました。
- これからも、景観改善やにぎわい創出などを図る各種施策を実施することで、県民の生活に潤いと活力を与えるまちづくりの推進を図っていきます。

II 「政策合意」項目に係る結果について

- ・別紙「平成23年度 政策合意項目に係る実施結果報告(土木部)」のとおり

平成23年度 政策合意項目に係る実施進捗報告(土木部)
(平成24年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要のあるもの)

役職	土木部長	氏名	西山 幸治
項目		実施結果	
<p>・治水対策の促進</p> <p>近年に浸水被害が発生した区間、想定氾濫区域内に家屋等が集中している区間、主要事業と関連する区間などを重点的に整備します。</p> <p>また、計画的に河川の浚渫や伐木を実施し、あわせて土砂や伐木の有効利用を図ります。</p> <p>さらに、浸水が想定される区域の土地利用計画などについて市町と協議します。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>早期に効果が発現できるよう底喰川、天王川など10河川の重点整備を進めました。</p> <p>また、計画的に河川の浚渫と伐木を実施し、あわせて浚渫土砂の有効活用、伐採木材の無償提供を実施しました。</p> <p>浸水が想定される区域での、調整池や水田を利用した治水対策などについて、地元市や住民と協議を進めました。</p>	
<p>〔整備効果が現れる河川延長 1,000m 河川の計画的浚渫の実施 2万m³〕</p>		<p>〔整備効果が現れる河川延長 1,180m 河川の計画的浚渫の実施 2.4万m³〕</p>	
<p>・ダム事業の推進</p> <p>足羽川ダムについては、関係市と連携して、早期の事業推進を国に強く要請します。</p> <p>河内川ダムおよび吉野瀬川ダムについては、「現行計画どおり事業を継続する」とした県の対応方針に基づき、事業の推進を図ります。</p>		<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>足羽川ダムについては、事業推進に向け一日も早くダム事業を継続するとの結論を出すよう国に要請を行い、3月30日にはダム事業継続との対応方針(原案)が国土交通大臣に報告されました。引き続き、事業が推進されるよう国に対して要請していきます。</p> <p>河内川ダムおよび吉野瀬川ダムについては、昨年10月に国が補助金交付を継続するとの対応方針を決定したことから、流域の安全を確保するため、一日も早くダムが完成するよう国の支援を受け、事業を推進します。</p>	
<p>・土砂災害対策の推進【部局連携】</p> <p>土砂災害警戒区域等を指定した地区において、砂防えん堤などの整備を進めます。</p> <p>また、倒木・枯木等の除去や森林管理にも役立つ里山砂防を推進します。</p> <p>さらに、土砂災害ハザードマップを活用し、県、住民、砂防ボランティア等が連携する土砂災害避難訓練の実施を市町に働きかけます。</p> <p>高齢者、障がい者、乳幼児などが利用する災害時要援護者関連施設については、施設管理者に対し土砂災害避難マニュアルの作成と避難訓練の実施を働きかけます。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>土砂災害から安全安心を確保するため、砂防えん堤などの施設を整備し、保全する人口が約820人増加しました。</p> <p>また、里山砂防については、シンポジウムを7月に開催し周知を図るとともに、作業路等を2箇所で開催しました。</p> <p>土砂災害避難訓練と防災講習会を6市町で実施し、警戒避難体制の整備を図りました。</p> <p>災害時要援護者関連施設については、土砂災害避難マニュアルの作成を働きかけるとともに16施設で現地指導するなど、施設管理者に作成のアドバイスを行いました。さらに、土砂災害避難訓練は27施設で実施され、防災体制や避難方法等の確認が図られました。</p>	
<p>〔砂防えん堤などの整備により保全する人口 33,400人 (平成22年度末 32,600人)〕</p> <p>市町の土砂災害避難訓練の実施数 6市町 災害時要援護者関連施設の土砂災害避難訓練の実施数 10施設 【チャレンジ目標 15施設】</p>		<p>〔砂防えん堤などの整備により保全する人口 3,420人(820人の増)〕</p> <p>市町の土砂災害避難訓練の実施数 6市町 災害時要援護者関連施設の土砂災害避難訓練の実施数 27施設</p>	

平成23年度 政策合意項目に係る実施進捗報告(土木部)
(平成24年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要のあるもの)

役職	土木部長	氏名	西山 幸治
項目		実施結果	
<p>・木造住宅の耐震化促進 東日本大震災や現在の社会情勢を踏まえ、木造住宅の耐震化を重点的に推進する施策などを検討し、「福井県建築物耐震改修促進計画」を改定します。 耐震診断や補強プランの作成、耐震改修工事に対する支援を、市町と連携して推進します。 さらに、人的被害の軽減を優先した経済的・効率的な耐震改修にも支援します。</p>		<p>[成果等] 目標にはいたりませんでした。</p>	
		<p>耐震改修工事の費用負担を軽減するため、耐震基準の7割程度の耐震改修工事(人命を守る程度の耐震化)も、新たに助成の対象とした結果、9戸の木造住宅の耐震化が図られました。 また、耐震改修工事の現場見学会を地域別に開催するなど、耐震化の必要性や助成制度の広報を充実しました。</p>	
<p>耐震診断・補強プランが作成される木造住宅戸数 2,547戸 (平成22年度末 2,297戸)</p> <p>耐震改修が行われる木造住宅戸数 120戸 (平成22年度 52戸)</p>		<p>耐震診断・補強プランが作成された木造住宅戸数 2,512戸(215戸増)</p> <p>耐震改修が行われた木造住宅戸数 86戸</p>	
<p>3 豊かな環境、もっと豊かに ◇ 見える見える温暖化対策 ・環境に配慮した良質住宅の普及 県独自に窓・外壁等の断熱性能を高める省エネルギーフォームに対して支援を行い、環境対応住宅の普及を促進します。</p>		<p>[成果等] 目標を上回って達成しました。</p>	
		<p>国の助成制度とともに、省エネルギーフォームへの助成を行ったほか、国の制度が終了した後も、県では助成制度を拡充し、既存住宅の省エネ化を促進しました。 県民や工務店を対象とした講習会を開催したほか、省エネルギーフォームに関する情報、県独自の助成制度のPRを実施しました。</p>	
<p>窓・外壁等の断熱性能を高める住宅戸数 250戸 (平成22年度 103戸)</p>		<p>窓・外壁等の断熱性能を高める住宅戸数 370戸</p>	

平成23年度 政策合意項目に係る実施進捗報告(土木部)
(平成24年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要のあるもの)

役職	土木部長	氏名	西山 幸治
項目		実施結果	
<p>・行政的な課題解決の研究への取り組み 雪対策・建設技術研究所では、土木・建築の分野において、公共施設の維持管理の効率化、克雪対策、建設廃棄物の再資源化、県産材の用途拡大などに関する研究を行い、公共事業におけるコスト縮減やリサイクルの推進など行政課題の解決を図ります。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 必要な強度を保ちつつアスファルト再生材の混合率を高める研究など 新たに研究を実施する数 3件 道路の地盤補強に間伐材の丸太を活用するなど 実用化に向けた実証実験数 2件 </p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>リサイクルの推進やコスト縮減等を図るため、舗装補修により発生するアスファルト廃材や、家屋解体で発生する廃瓦を再生して有効に利用することなど大学・民間等と共同で研究し、室内試験によりアスファルトやコンクリートに混合する最適な割合等を決定し、有効利用が可能であることを確認しました。</p> <p>また、県産材の用途を拡大するため、杉丸太を道路の地盤補強に利用する実証実験を実施し実用化が可能であることを確認しました。また木杭を腐らせない方法の特許を取得しました。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 新たに実施した研究 3件 ・舗装補修工事におけるリサイクル推進とコスト縮減のため、アスファルト廃材の再生割合を高めた再生アスファルト混合物を作る研究を実施し、再生混合割合を70%まで高められることを確認した。 ・家屋解体におけるリサイクル推進とコスト縮減のため、廃瓦を混合したコンクリートの研究を実施し、廃瓦と砂利の混合割合が50%のコンクリートが作れることを確認した。 ・道路の維持管理におけるコスト縮減を図るため、凍結防止剤の散布量を減らす研究を実施し、凍結防止剤散布量の20%の粘着液と一緒に散布することで飛び散りが抑制され、散布量が抑えられることを確認した。 </p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 実用化に向け実施した実証実験 2件 ・県産材の用途を拡大するため、道路下に杉丸太を打ち込み地盤補強に利用する実証実験を行った結果、道路の沈下が抑えられることが明らかとなり実用化が可能であることを確認した。 ・建物の維持管理費用を抑えるため、杭から得られる地中熱を利用した空調システムの実証実験を行い、一般的な空調システムに比べ冷暖房とも約40%の効率化が図られ実用化が可能であることを確認した。 </p>	

平成23年度 政策合意項目に係る実施進捗報告(土木部)
(平成24年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要のあるもの)

役職	土木部長	氏名	西山 幸治
項目		実施結果	
<p>◇ 景観を県民資産に ・子どもにも大人にも新しい「住教育」を推進【共同研究】【部局連携】 地域の特性に応じた福井らしい住まいや街並み、住まい方を、よりよい資産として次世代に継承する「住教育」をモデル地区で行います。 また、課題解決プロジェクトチームによる検討や学識者の知見を活かして「住宅・宅地マスタープラン」を改定します。</p>		[成果等] 引き続き実施します。	
		<p>県内4地区で関係団体や大学と連携して、街並み景観チェックや小学校への出前講座など、地域の特性に応じた住教育を実施しました。 また、課題解決プロジェクトチーム、学識経験者との政策会議や福井県住宅政策懇話会での検討を踏まえ、「住宅・宅地マスタープラン」を改定しました。</p>	
<p>住教育実践モデル地区数 4地区 (福井市、敦賀市、越前市、南越前町各1地区)</p>		<p>住教育実践モデル地区数 4地区 福井市：日新地区 敦賀市：舟溜り地区 越前市：タンス町界限 南越前町：今庄旅籠宿</p>	
<p>・景観調和の美しい社会資本の整備【部局連携】 塗装の塗り替えが予定されている橋りょうや、新たに整備する橋りょうについて、景観アセスメントを取り入れ、周辺景観と調和した色彩となるよう、「橋りょう景観ガイドライン」を策定します。</p>		[成果等] 目標を達成しました。	
		<p>橋りょう景観ガイドライン策定については、国や他県の色彩指針や事例調査などを行い、橋梁における色彩選定や景観アセスメントの手法等について検討し、ガイドラインを策定しました。 今後は、このガイドラインに基づき、橋梁の塗り替えなどにおいて、景観調和の美しい橋梁の整備を実施していきます。</p>	
<p>・カーナビ時代の道路景観改善【部局連携】 老朽化や退色等が進んでいる公共施設の案内看板を撤去するなどし、道路景観の改善に努めます。 また、歩道などの整備に合わせて道路標識等の集約化を図ります。 舞鶴若狭自動車道の供用開始前区間や市町の景観計画で良好な景観形成が必要な路線を新たに福井県屋外広告物条例の「禁止地域」に指定し、屋外広告物の設置を抑制します。 ボランティア団体等へはり紙など簡易な違反広告物を撤去できる権限を市町が委任することを働きかけ、地域住民と共働して普段から違反広告物が設置されない環境づくりを進めます。</p>		[成果等] 目標を達成しました。	
		<p>耐用年数が経過した公共施設への案内看板等を撤去するなどし、道路景観を改善しました。 歩道整備区間において、既設標識柱の利用による集約化を行いました。 舞鶴若狭自動車道の供用開始前区間と勝山市景観計画で良好な景観形成が必要な8路線を平成24年1月1日に福井県屋外広告物条例の禁止地域に指定しました。 簡易な違反広告物を撤去できる権限をボランティア団体等へ委任していない12市町に働きかけた結果、勝山市が権限の委任を実現しました。</p>	
<p>背面利用や併設などによる道路標識等の減少 5箇所 (平成22年度実績 8箇所)</p> <p>新たに禁止地域に指定する区間 9区間 (過去10年間に新たに指定した区間 6区間) 簡易な違反広告物を撤去できる権限をボランティア団体等に委任する市町数 6市町 (平成22年度末 5市町)</p>		<p>既設標識柱の利用による道路標識等の減少 6箇所</p> <p>新たに禁止地域に指定した区間 9区間</p> <p>簡易な違反広告物を撤去できる権限をボランティア団体等に委任した市町数 6市町</p>	

平成23年度 政策合意項目に係る実施進捗報告(土木部)
(平成24年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要のあるもの)

役職	土木部長	氏名	西山 幸治
項目		実施結果	
<p>4 県土に活気の高速度交通時代</p> <p>◇ 高速交通ネットワークの完結促進</p> <p>・舞鶴若狭自動車道の全線開通</p> <p>平成26年度内と予定されている全線開通が、1日でも早く実現するよう、中日本高速道路株式会社に要請します。</p> <p>また、スマートインターチェンジの設置について、国や中日本高速道路株式会社に要請します。</p>		<p>[成果等] 引き続き実施します。</p>	
		<p>舞鶴若狭自動車道の一日も早い開通や、スマートインターチェンジの設置に関する予算確保や連結許可に向けた手続き開始について、中日本高速道路株式会社や国土交通省に対し強く要請を行いました。</p> <p>小浜西・小浜間については、夏休み前の7月16日に開通しました。</p> <p>小浜・敦賀間については、10月には国道27号と交差する気山高架橋の架設が完了し、また区間最長の国富トンネルをはじめ7本のトンネルが貫通するなど、平成26年度開通に向けて全区間で工事が進められています。</p> <p>敦賀南スマートインターチェンジ(仮称)については、3月1日に国土交通省による連結許可手続きが開始されたことから、3月5日に中日本高速道路株式会社へ実施計画書が提出されました。</p>	
		<p style="text-align: center;">舞鶴若狭自動車道の進捗状況</p> <p>小浜西・小浜間(11.3km)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開通(7月16日) <p>小浜・敦賀間(39km)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度に架設完了した橋梁(橋長100m以上) 2橋(全22橋中4橋架設完了) 気山高架橋、金瀬川橋 ・平成23年度に貫通したトンネル 8本(全14本中13本貫通) 国富トンネル、中郷トンネル、御岳山トンネル 本保トンネル、鳥浜トンネル、田上トンネル 鳥羽トンネル、矢筈山トンネル 	

平成23年度 政策合意項目に係る実施進捗報告(土木部)
(平成24年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要のあるもの)

役職	土木部長	氏名	西山 幸治
項目		実施結果	
<p>・中部縦貫自動車道の整備促進 永平寺大野道路については、早期全線開通のため、未買収の用地の取得を促進するとともに、平成26年度開通予定の福井北・松岡間および平成24年度開通予定の勝山・大野間の工事促進を国に要請します。</p> <p>大野油坂道路については、事業化されている大野東・和泉間の早期用地買収着手のための用地測量を促進するとともに、事業化されていない大野・大野東間と和泉・油坂峠間の早期の事業化を国に強く要請します。</p>		<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>中部縦貫自動車道の事業促進や事業化されていない区間の早期事業化について国土交通省に強く要請を行いました。</p> <p>永平寺大野道路について、福井北・松岡間では松岡高架橋の橋脚の約8割が年度末に完成し、勝山・大野間では3本のトンネルのうち最後となる大袋トンネルの来月貫通が予定されているなど、両区間ともそれぞれ福井北・松岡間が平成26年度、勝山・大野間が24年度開通に向けて順調に工事が進捗しています。永平寺東・上志比間では、浅見(あざみ)トンネルが10月に貫通するなど工事が進められています。</p> <p>大野油坂道路について、和泉・油坂間の平成24年度新規事業化が決定され、大野東・和泉間では用地測量が進捗しました。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">中部縦貫自動車道の進捗状況</p> <p>永平寺大野道路 福井北・松岡間(2.2km)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松岡高架橋橋脚(全32基)の約80%完成 ・関西電力(株)送電線鉄塔移設完了 <p>永平寺東・上志比間(5.3km)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浅見トンネル貫通(全1本中1本貫通) ・光明寺地区工事着手 <p>勝山・大野間(7.8km)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小矢戸トンネル貫通(全3本中2本貫通) ・中津川高架橋架設完了 <p>大野油坂道路 和泉・油坂間(15.5km)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度新規事業化決定 </div>	

平成23年度 政策合意項目に係る実施進捗報告(土木部)
(平成24年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要のあるもの)

役職	土木部長	氏名	西山 幸治
項目		実施結果	
<p>・主要県内道路・県境道路の整備 高規格幹線道路と連結する基幹的な道路ネットワークの整備を最優先課題とします。</p> <p>また、県民の安全と利便性、効果、効率性とともにより地元合意や市町との連携なども考慮し、優先度をつけて計画的に整備します。</p> <p>〔県内主要道路の供用箇所数 5箇所 (平成19～22年度 21箇所)〕</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>舞鶴若狭自動車道小浜西IC～小浜IC間や、小浜ICにアクセスする小浜インター線をはじめとする主要道路5箇所が供用されました。</p>	
		<p>〔主要道路の供用箇所数 5箇所〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町道10号線(代行事業) (若狭町新道) 6月26日 ・舞鶴若狭自動車道 (小浜西IC～小浜IC間) 7月16日 ・一般県道小浜インター線 (小浜市木崎～府中) 7月16日 ・主要地方道鯖江美山線(新出跨道橋) (鯖江市長泉寺町～上河端町) 10月1日 ・一般県道勝山停車場線(勝山駅前広場) (勝山市遅羽町千代田) 11月24日 	
<p>◇ 海と空の拠点を最大活用 ・敦賀港の利用促進【部局連携】 敦賀港が定時性、速達性に優れた対岸向けの航路を有し、災害時には太平洋側港湾の代替機能も果たせる港であることを国に強くアピールして、日本海側拠点港に選定されることを目指します。</p>		<p>[成果等] 目標を一部達成しませんでした。</p> <p>「国際海上コンテナ」、「国際フェリー・国際RORO船」、「国際定期旅客」の3つの機能について日本海側拠点港に応募した結果、「国際フェリー・国際RORO船」機能で拠点港に選定されました。</p> <p>今後も、敦賀港の拠点港計画実現に必要な予算の確保と、重点的な整備が行われるよう国土交通省に対して要請していきます。</p>	
<p>◇ 次の50年の都市改造 ・福井駅周辺部の整備【部局連携】 えちぜん鉄道の高架化については、高架の構造、施工方法、都市計画変更の内容等について国や関係機関と引き続き協議を進めます。</p> <p>また、西口駅前広場の整備など土地区画整理事業の取組みを支援します。</p>		<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>えちぜん鉄道の福井駅への高架乗入については、昨年末に新幹線の敦賀までの認可の方向性が示されたことから、福井駅東側に単独で高架する新たな案について、国や関係機関と協議を進めています。</p> <p>また、西口駅前広場の整備など土地区画整理事業の取組みを支援しています。</p>	

平成23年度 政策合意項目に係る実施進捗報告(土木部)
(平成24年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要のあるもの)

役職	土木部長	氏名	西山 幸治
項目		実施結果	
<p>・足羽川の利活用の推進 県都の水と緑、歴史と文化のシンボルである足羽川の水辺に親しむ自然観察、川遊び、釣り体験などの活動促進と定着を図り、人と川のつながりを広げます。</p> <p>〔釣りやカヌーなどの体験活動への参加者数〕 600人</p> <p>足羽川での自主活動団体数 30団体 (平成22年度 27団体)</p>		<p>〔成果等〕 目標を上回って達成しました。</p> <p>足羽川利活用に向けて、5月に市民団体や学校、企業などの参加を得て「まちなか足羽川会議」を設立しました。参加団体と共働して、アユのつかみ取りやボートの川下りといった体験活動を実施し、多くの県民に参加いただき、人と川のつながりが広がりました。</p> <p>釣りやカヌーなどの体験活動への参加者数 2,077人</p> <p>主な体験活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アユのつかみ取り 70人 ・カヌーやボートの川下り (3回) 92人 ・アユの稚魚放流体験 (2回) 196人 ・復興エコキャンドル 800人 ・ふくいまちかどコンサート 500人 <p>足羽川での自主活動団体数 36団体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園・幼稚園・学校等 9団体 ・市民団体 17団体 ・民間企業 7団体 ・自治会関係 2団体 ・行政 1団体 	
<p>◇ 電車・バス・自転車に乗りやすい街 ・自転車道の整備【部局連携】 既存の自転車道や河川堤防を活用し、自転車走行環境を整備します。 また、市町やカーセーブに関係する団体等と連携し、県境や観光地を含む自転車道のネットワーク化、利用促進を図ります。</p> <p>〔自転車道のネットワーク化による安全な通行の確保〕 103km</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました</p> <p>福井県の北潟湖ハミングロードと石川県の加賀海岸自転車道のネットワーク化を図りました。</p> <p>〔自転車道のネットワーク化による安全な通行の確保〕 103km (9kmの増)</p>	
<p>5 行財政構造改革による財源の確保 ◇ 150億円の「政策推進枠予算」を確保</p> <p>・県有地の売却・利活用 土地利用促進チームが、新たに専門業者の販売ノウハウを活用し、県有地(元土地開発公社・住宅供給公社保有地)の民間企業等への売却や利活用を進めます。</p> <p>〔売却・利活用する土地の区画数〕 8区画</p>		<p>〔成果等〕 目標にはいたりませんでした。</p> <p>関係団体、近隣企業、宅建業者へのPRや訪問、一般公募等を実施して、3区画を売却、1区画を有償貸付しました。</p> <p>〔有償貸付〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福井市大手 民間業者に駐車場として有償貸付 (H23.6～H26.3) 1区画 <p>〔売却〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・坂井市春江町為国 坂井市に1区画売却 ・花乃杜ハイツ 個人に2区画売却 <p>〔売却・利活用した土地の区画数〕 4区画 今年度歳入：52,551千円</p>	